

令和6年度第2回三鷹市商工振興対策審議会 会議録

- 開催日：令和6年11月14日（木）午後4時から午後5時30分まで
- 会場：元気創造プラザ 5階 災害対策本部室
- 出席委員：上原委員、額田委員、姜委員、森本委員、羽田野委員、酒井委員、
吉田（純）委員、蒲谷委員、北委員、大倉委員、太田委員、岩見委員、
中泉委員、大城委員
- 傍聴者：1名

1 開会

【出席状況の確認】

・開会時点で委員定数20名中14名の出席をもって、過半数を超えているため、三鷹市商工振興対策審議会条例第6条第2項に基づき会議は成立。

【会議の公開及び傍聴人の決定について】

・三鷹市市民会議、審議会等の会議の公開に関する条例第6条に基づき、会議開催の事前公表を令和6年11月1日よりホームページにて実施し、11月12日午後5時まで傍聴希望者を募集した。
・傍聴希望者1名で、傍聴人として決定。

【会長挨拶】

・額田会長より挨拶

【会議録について】

・三鷹市市民会議、審議会等の会議の公開に関する条例第9条及び第10条に基づき会議録を作成し、決裁後閲覧に供する。

2 議事

【議題（1） 三鷹市産業振興計画2027（仮称）について】

〔事務局〕資料1～3を使用して説明

<意見交換>

〔委員〕

・観光案内所のスペースの拡充を取組方針に掲げているが、候補地などどれくらい検討が進んでいるか。

- ・玉川上水沿いの道路が閑散としているため、店舗立地など進められないか。

[事務局]

- ・観光案内所の性質上、駅から近いことやお土産品を販売できることが望ましいなど、適地の選定や機能等について調査研究を進めていく。
- ・玉川上水沿いの「風の散歩道」については、都市計画上の用途規制もあるため、都市整備部と連携しながらまちづくりの視点をもって観光振興に努めていきたい。

[委員]

- ・六次産業化に関して、食の現場では、生産者である農家やバイヤー、飲食店がそれぞれの立場で地域ならではの「味」を追求して売上向上などを実現している事例がある。例えば三鷹の農業を活かしたカフェやレストランづくりなど、まちのにぎわいの観点で取り組めることはあるのではないか。

[事務局]

- ・都市農業の振興については、多様な主体が連携しあい、それぞれの得意分野を活かすことで三鷹全体のにぎわい創出につながる可能性があると考えます。特に市内農業においては、地域によって違いがあるなか、若手就農者など多様な主体が連携しながら活躍されている。商工業分野においても重要な視点であり、農業分野によるにぎわいづくりや六次産業化の成功事例など調査研究を進めていく。

[委員]

- ・「産業と生活が共生する都市」という意味では、子供たちも含めて農業に触れ合う機会をつくることで商店街の活性化につながる可能性もあるため、他課との連携を検討してほしい。

[委員]

- ・多様な若手の連携の観点においては、市内の青年3団体（JA 東京むさし三鷹地区青壮年部、三鷹商工会青年部、三鷹青年会議所）による次世代人材育成・交流会の事例がある。その他のアイデアとしては、例えば「餃子のまち〇〇」のように、三鷹市ならではの特産品を飲食店等と連携して検討し、PRすることも効果的ではないか。

[委員]

- ・農商工連携や六次産業化は、地方と都市型農業では違う意味合いを持つ。地方は農家の所得増加を狙いとした六次産業化が多い一方、都市型は別の着眼点で実施した方が成功しやすい。例として、教育分野と連携し、農家の方が自主的に生活者目線の需要を取り込んだ企画をすると面白い展開ができるのではないか。また、体験農園やインバウンド、三鷹独自の農

作物を使用したレストランなども観光客等の誘致につながると考える。

[事務局]

・農業と教育の連携として、学校農園で市内農家と子ども達が触れ合う機会がある他、一部の学校では課外活動で市内農家と一緒に、サツマイモを育てケーキを作り販売する等の取組を実施している。また、農商工の連携としてキウイワインやみたか宙玉ゼリーの取組を実施している。

[委員]

・物価上昇や金利上昇などを受けて、中小企業の資金繰りが厳しい状況である。そのような中で、行政の信用保証料補助や利子補給等の中小企業への支援は、経済を下支えする重要な施策となる。今後も社会情勢に応じ、中長期的で持続可能なサポートを行うことが大切だと考える。

[事務局]

・信用保証料補助や利子補給については計画期間にとどまらず実施していく予定。短期プライムレートの変動に伴う金利変更など、情勢に応じた資金繰り支援を柔軟に行っていく。

[委員]

・施策の柱①「商店街支援の推進」について、商店主の高齢化や後継者不足に対する事業承継支援策の記載がないが考え方について聞きたい。

・新創業支援施設の開設を控え、今一度、創業支援機関の連携強化を図るべきと考える。

・三鷹産業プラザにおける災害時の電力供給による事業継続支援について、ポータブル型蓄電池の配置を取組として掲げているが、将来的な自家発電設備の導入は考えているか。

[事務局]

・事業承継支援について関係機関と連携して推進するとともに、計画への反映を検討する。

・創業支援機関の連携について、支援体制の強化を検討する。

・三鷹産業プラザの拠点整備については東京都の補助金を活用して実施しているところである。現状、スペースの問題や整備スケジュール等を考慮してポータブル型蓄電池の配置としている。自家発電機能については今後の検討課題としたい。

[委員]

・廃業後、店舗をどのように活用していくかが重要となる。廃業した場合、周囲の商店と相談する仕組みを取り入れている自治体もあるため参考にすると良い。

[事務局]

- ・商店街の廃業は重要な課題となっているため、連携の在り方について工夫が必要である。

[委員]

- ・滞在時間の増加に向けた三鷹駅前における観光情報の PR についての所見を聞きたい。
- ・各施策の指標について、令和 9 年度までの目標値を定めているが、中間的な目標値を定めることは検討していないか。
- ・商店会の加入率は減少傾向にある。市内商店会の会員事業者数の目標値の根拠を教えてください。

[事務局]

- ・観光振興に向けて、観光情報の周知として観光案内所の在り方や PR 方法等について検討を進めていく。
- ・産業振興計画としては令和 9 年度までの指標としている。
今後、毎年度予算措置を行ううえで、例えば各部の重点事業等をまとめる中での評価など、単年度目標を段階的に設定、評価する可能性もある。
- ・商店街のにぎわい創出に向け、既存の商店会員だけでなく、新規会員を増やすことを目標としている。例として、商店会の加入を要件とする新規出店者支援金等で新規会員の増加につなげていく。

[委員]

- ・40 代以下で起業する方はインターネット等で情報収集をすることが多いため、インターネットでの情報発信が重要になる一方、イベント等の人が集まる場でもアピールできると良い。特に、若い人が集まりやすい環境をアピールする仕掛けが必要だと考える。
- ・「施策の柱② 創業環境の整備及び支援の拡充」について施策の詳細を聞きたい。

[事務局]

- ・資料 1 「施策の柱② 創業環境の整備及び支援の拡充」について説明

[委員]

- ・創業後の事業継続に係る伴走型支援について、専門家相談だけでなく、先輩起業家とのネットワークづくりや相談できる場づくりも支援の一つとして検討してほしい。

[委員]

- ・商工会では、経営理念を学ぶ「マーケティング塾」や起業経験者で構成される「三の会」による取組を実施しており、起業する前からの参加も可能である。

[事務局]

・商工会等において起業家のネットワークが作られている一方、これらのコミュニティに参加することに躊躇してしまう方もいると思われる。スムーズな参加を後押しできる仕組みづくりも検討が必要と考える。

[委員]

・計画の中に、創業に関するネットワークづくりの視点を入れると良いと考える。

[委員]

・工業分野は設備投資など資金面のハードルが高く、新規創業者は少ない。そのため、事業者を減らさないことが重要であるが、事業承継に課題があるため、M&A 等のマッチング支援を検討してはどうか。

[事務局]

・M&A 等のマッチング支援については、商工会や事業承継・引継ぎ支援センター等の機関が実施している。市としては、事業承継に早急に取り組んでいくことの重要性を情報発信していくとともに専門機関に繋いでいく。

[委員]

・子どもは工業分野を目にすることが少ない。例えば職場見学等を通して、子どもたちの知る機会を設けることが必要ではないか。

[事務局]

・令和 6 年 12 月に開催するみたか商工まつりにて、一部の部会ではブースを設け体験できる機会がある。また、学校の取組として、市内事業者へ職場体験する機会があると認識している。

[委員]

・みたか地域ポイント「みたポ」について、アプリの開発、維持は費用対効果で難しいのではないか。

[事務局]

・市民を地域に呼び込む効果や経済効果などがあり、市としては運用を推進していく方針である。一方、運用について課題があることは認識している。所管課と協議を行いながら慎重に検証する。

〔委員〕

- ・みたか地域ポイント「みたぽ」の実施については、よく検討してほしい。
- ・計画策定にあたり、長い時間軸の中のトレンドがないと施策や指標の適切さが判断できない。インパクトのある計画を期待しているが、現状では各施策を書き連ねただけであり小粒に感じる。産業振興計画 2022 をどのように総括し、産業振興計画 2027 へつなげていくのか教えてほしい。

〔事務局〕

- ・産業振興計画 2022 は、経済センサスを基に指標を立てており毎年度の把握が難しいという課題があった。実績値としては新型コロナウイルスによる影響もあり、目標達成に至らなかったと総括している。産業振興計画 2027 では、新たに「高付加価値化」といった視点を持つとともに、前計画で達成できなかった部分についても、施策に直結する指標を立てることで事業所数の維持や活性化を目指していく。
- ・個別計画においてどこまで具体的な記載ができるか難しい部分がある。産業振興計画 2027 では、抽象的な表現が多く具体性が不足している部分もあるが、4 年間の計画期間中、事業を実行していく中でインパクトがある施策を打ち出していきたい。

【（2）その他 関係団体からの報告】

<三鷹商工会>

- ・第 8 回三鷹まちゼミについて
- ・第 47 回三鷹商工まつりについて
- ・三鷹でちょい呑みハシゴ酒について

【事務局より】

- ・次回開催は令和 7 年 2 月を予定している。
- ・平日午後 4 時からの開催を予定。

3 閉会